

入選 岐阜県 矢橋 悠 様 (高校生)

年金オババを知っているだろうか？ ぼくは知っている。何故ならぼくの伯母さんだから。本人が言うのだ。間違いはない。役所で働く伯母は、国民年金を担当して今年で10年目。

「古い道具は100年経つと妖怪になるって言うでしょ。異動サイクルが2、3年の役所でこんなに同じ席にいるんだもの、もうすぐ妖怪オババになるのよ」と伯母はぼくをおどかす。制度改正など実務経験で記憶していることが多く、年金事務所に入りたての職員さんと知識の下克上が起きることもあるらしい。

その年金オババいわく、「世間で年金のしくみが認識されていなさすぎ」。国民年金と厚生年金の違いはもちろん、健康保険と年金の区別がつかず、役所の窓口で基本説明からはじめる事もあるらしい。病院にかかる時のため、健康保険に入る理由は分かるけれど、「年金」はどうして必要なのか。見当がつかないぼくにオババは教えてくれた。年金は貯金ではないし代価でもない。また、自分のためだけのものではない。いつ来るかもしれない日ごろの「備え」なのだと。

ぼくが今、平和で安全な毎日を送れるのは、現役世代と呼ばれる社会人が様々な立場で汗して働いて貢献してくれているからだ。フルスロットルで働いていたその人たちが最前線を退いても、引き続き安心して暮らせるよう恩に報いて生活を支える保障が年金の大切な役割の一つ。その他、社会貢献したいと望んでも体や心の不調で果たせない人、家庭事情で困難な人もいる。立場や生活水準を公平に支えるためにも年金は不可欠で、こうした場面では障害年金や遺族年金が力を発揮する。年金にお年寄りのイメージしかなかったので、高齢でなくても受け取れる年金がある事にぼくは驚いた。

しかし、「年金制度は破たんするんでしょ、どうせ将来もらえないなら払うだけ損」、と言う人もいる。自営や学生、無職の人などが加入する国民年金の令和6年度の納付率は78.6%。13年連続で上昇中と言うものの、保険料の全額免除、納付猶予を申し出た人数は592万人存在する。つまり加入者全体で見た実質納付率は5割程度という現実は、報道でもとりあげられた。

「ほら、税金だって年金だって払わない人が得じゃないか」

ぼくが言うと、オババは

「でも考えてみて。払わなきゃいけない税金や年金を払わない人に、大きな責任が背負えるかな。世の中そんなに甘くないんじゃない？ 想像してみてよ。責任を果たしていない人からお金貸してって言われても、信用できないから『うん』って言えないでしょ」

確かにこの説明はストンとお腹に納まった気がした。

「ちゃんと社会貢献して義務も果たしています、私を信用しても大丈夫ですよという証明が、役所が交付する所得証明書や課税証明書なの。会社が発行する源泉徴収票もそういう意味を持っているのね」

「年金は預金でも投資でもなくて課金」とオババは続けた。日本というこの国で社会生活を送るために納めるべきお金が税金や年金という社会保険料なのだと言う。自分が払った税金が道路の舗装修繕に使われたからと言って、自分以外は通ってはいけない、なんて制限はかけられない。時には自分が世の中に貢献できるし、時には誰かの力を借りて自分の生活が円滑に進む場合もある。お互い様、相互協力によって 1 + 1 は 2 以上の馬力になるから大事なのだとオババは言った。

オババが知っている人で、自分のお孫さんの国民年金保険料を年金支給日にコツコツ代理納付しているお婆さんがいるそう。年金で年金の支払いとは、なんと狭い範囲でお金が回っているものかと複雑な気がするが、助け合って生活する本当の意味が分かるのは、年金をもらう側の立場になった時なのかもしれない。義務を果たさず後ろめたい気分で生きるより、みんなを支える一員を目指そう。胸を張って社会人と名乗れる人、ぼくは積極的にそういう人でありたいと思っている。